

❖ お薬手帳用シールの例

この薬の効果は？

です。

* (解説) 本剤服用の患者は、病識がなく、幻覚や妄想の症状があったとしても、それは患者にとっては実際に見えるものであり、病気の症状と認識されていない可能性が高い。しかし、実際において幻覚などがあれば、不安であり、さまざまな身体的・精神的な苦痛を感じているはずである。そこで、患者が困っている症状を聞きだし、それらを改善する薬であると伝えてもよいと考える。

この薬の効果は？ (ご家族の方に)

ドパミンなどの脳内の神経伝達物質が働きかける受容体に働きかけ、幻覚・妄想などの症状を抑えたり、興奮しすぎたりといった不安定な精神状態を安定させます。また、やる気がしない、何も興味がもてないといった停滞した心の状態を改善させる働きもあります。

この薬は体調がよくなったと自己判断して、服用を中止したり量を加減すると、病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けましょう。

可能なら体重や尿糖を測る習慣を！

食事に気をつけたり、運動を心がけましょう。

高血糖(激しい喉の渇き、水やジュースをたくさん飲む、尿の量が多い、尿の回数が多い)や低血糖(脱力感、倦怠感、冷や汗、手足のふるえ、うとうとする、意識が薄れるなど)の症状が現れたら、この薬を飲むのをやめて、ただちに受診してください。

また体重が急激に減少した場合には、糖尿病の発症・増悪なども考えられるため、原因を調べてもらってください。

筋肉のこわばりや手足のふるえはないですか？

このような症状がある場合は、薬の影響も考えられるので、医師・薬剤師に相談してください。

月経が再開する場合があります

他の抗精神病薬を飲んでいる場合にこの薬を飲むと、月経が再開する、月経量が増える、貧血、子宮内膜症などの症状が現れることがあります。

眠気に注意を

眠気、注意力・集中力・反射能力などの低下が起こることがあるので、自動車の運転など危険を伴う機械の操作は行わないようにしましょう。またアルコールは薬の作用を強めることがあるので、注意してください。

じっとしていられないという症状はないですか？

他のお薬から変更になったとき、足や体がムズムズしてじっとしていられない、アリが体をはっているといったように感じたり、眠れないなどの症状が現れた場合は、医師に相談してください。

突然の息切れ、下肢のむくみ・痛み要注意

抗精神病薬を飲んでいる人に、肺塞栓症(突然の息切れ)、静脈血栓症(下肢のむくみ・痛み)の報告があります。長時間動かない人、長期間病床にある人、肥満の人、脱水状態の人は特に注意してください。

低血圧に注意を

この薬は起立性低血圧を起こす可能性があります。循環器疾患または脳血管疾患をもつ方や、低血圧を起こしやすい状況(脱水、降圧薬投与など)にある方は気をつけてください。

内用液の注意事項

- * この薬はそのまま直接飲むか、1回分を湯冷ましやジュースなどに混ぜて、コップ1杯(約150mL)くらいに希釈し、希釈後は速やかに使用すること。
- * 煮沸していない水道水は、塩素の影響により薬の効き目が低下するので混合は避けること。
- * 茶葉由来飲料(紅茶、ウーロン茶、緑茶、玄米茶など)および味噌汁は混合すると、混濁・沈殿を生じて効き目が落ちるので、混合しないこと。
- * 一部のミネラルウォーター(硬度の高いものなど)は、混合すると混濁し、効き目が低下することがあるので、濁りが生じた場合は服用しないこと。
- * 分包品は1回使い切りなので、開封後は速やかに全量服用すること。